気象庁は、過去約30年分のデータに基づき作成した「基準」と、降った雨が溜まったり流れ下ることで引き起こされる土砂災害、浸水害、洪水災害のリスクを高めるメカニズムを模式化して求めた「指数」から、災害発生の危険度を判定し、「大雨警報」「洪水警報」「土砂災害警戒情報」を発表しています。

また、その危険度がどこで高まっているかを、「キキクル」（危険度分布）の地図上で色分けして表示し、警戒を呼びかけています。危険度は、「黄」→「赤」→「紫」→「黒」の順に高くなります。キキクルを見ると、自分が滞在する現在地の危険度の高まりを一目で把握でき、とても便利です。

雨が浸み込んで土壌中に留まる
土砂災害のリスクが高まる
雨が浸み込まず地表面に留まる
浸水害のリスクが高まる
洪水災害のリスクが高まる
雨が上流域から集まり河川を流れ下る

土砂キキクル　浸水キキクル　洪水キキクル

【気象庁が発表する情報のタイミングと住民の行動（土砂災害の場合）】

気象状況	気象庁等の情報	キキクル	市町村の対応	住民が取るべき行動	警戒レベル
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	災害切迫	緊急安全確保	命の危険　直ちに安全確保！	5
＜警戒レベル４までに必ず避難！＞					
	土砂災害警戒情報	危険	避難指示	危険な場所から全員避難	4
大雨の数時間～2時間程度前	大雨警報 洪水警報	警戒	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難	3
大雨の半日～数時間前	大雨警報に切り替える可能性が高い注意報	注意		自らの避難行動を確認	2
	大雨注意報 洪水注意報				
大雨の数日～約１日前	早期注意情報（警報級の可能性）			災害への心構えを高める	1

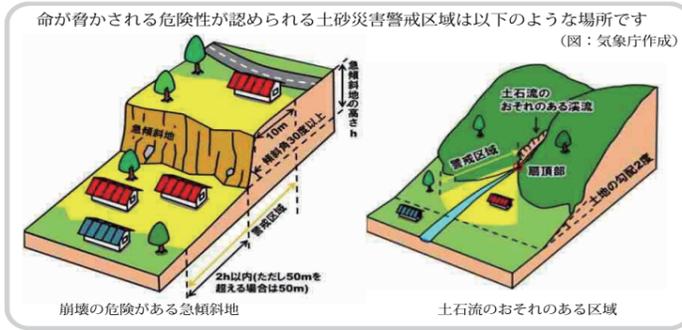
◎ 土砂キキクル

土砂キキクルは大雨警報（土砂災害）や土砂災害警戒情報を補足する情報です。土砂災害発生危険度の高まりを５段階に判定した結果を表示します。避難にかかる時間を考慮し、判定には２時間先までの土壌雨量指数等の予想を用います。

土砂災害の発生の危険性が認められる場所

土砂災害は、土砂災害警戒区域等で発生します。あらかじめお住まいの環境を把握するとともに、ハザードマップなどで土砂災害警戒区域であるかをご確認ください。

命が脅かされる危険性が認められる土砂災害警戒区域は以下のような場所です（図：気象庁作成）

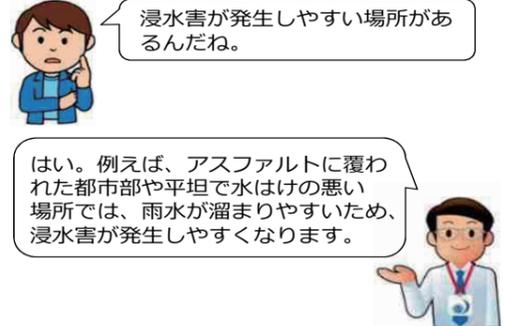
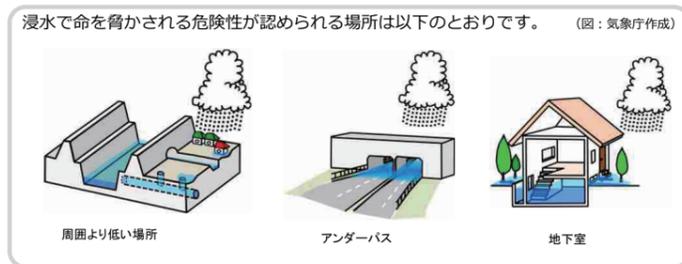
崩壊の危険がある急傾斜地　　土石流のおそれのある区域

◎ 浸水キキクル

浸水キキクルは大雨警報（浸水害）を補足する情報です。下水道等で排水しきれないほどの大雨が短時間で降ったことが原因で、河川とは関わりなく発生する浸水害発生危険度を５段階に判定した結果を表示します。判定には１時間先までの表面雨量指数の予測値を用います。

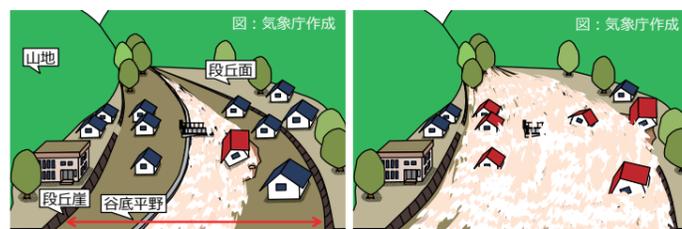
浸水害発生の危険性が認められる場所

浸水害は、周囲より低い場所や地下室などで発生します。あらかじめお住まいの環境を把握するようにしてください。

浸水で命を脅かされる危険性が認められる場所は以下のとおりです。（図：気象庁作成）

浸水害が発生しやすい場所があるんだね。

◎ 洪水キキクル

洪水キキクルは洪水警報を補足する情報です。河川流域に降った雨による洪水災害発生の危険度を５段階に判定した結果を表示します。判定には３時間先までの流域雨量指数の予測値を用います。

洪水災害発生の危険性が認められる場所

山間部の流れの速い河川で川岸が削られて家屋が流されてしまう場所
川からあふれた水の流れにより家屋が流失してしまう場所（谷底平野など）
川の付近の低地の家屋や地下室などのように、深く浸水してしまう場所
ゼロメートル地帯のように、浸水が長期間継続してしまう場所　など

洪水災害は、堤防が決壊したり水があふれた場合に浸水が予想される区域や、山間部の流れの速い河川沿いなどで発生します。特に、決壊した堤防の付近や幅が狭く氾濫時に水かさが深くなる谷底平野では、破壊力の大きな氾濫流が生じて家屋が押し流されるおそれがあります。あらかじめハザードマップなどで洪水浸水想定区域を確認するとともに、お住まいの環境に危険性がないかを把握してください。